



飛龍 県3冠

全国高校バスケットボール選手権大会(ライオン杯)男子部
(12日 県立演習)

▽男子決勝
飛龍 82
18281510
10181310
56 豊後明誠

V ぶり11年大勝
男子は飛龍が後半、大層リードを奪って、11年ぶり8度目の優勝。新人戦から県無敗で3冠の目標を達成し、原田善作監督(34)に、就任8年目で初のウインタ杯切符を贈った。作戦通り。スコアが

競った前半から、後半に向けて準備を箱々と進めていた。「相手の気持ちが切れるまで」とC奥村大翔(3年)が、藤枝明誠の留学生C2人のファウルを誘い、ゴール下から守りを崩していった。

後半イッキ!!

2点リードで迎えた後半は、ギアを上げ、スピードアップ。3pt、ドライブと次々とシュートを放ち、第3Qで15点差まで引き離した。主将のG伊東潤司(3年)は「目標の3冠

ができてうれし。念願のウインタ杯獲得を喜んだ。(矢野)

▽女子決勝
飛龍 91
19141424
18101415
53

点44得
女子は海館が快勝で最後まで押せつけ、3将ウインタ杯を決めた。石田の44得点を主将のG石田(3年)は、ハンクしながら試合待ち、プザーが

◎入飛龍・藤枝明誠Vシニートを決める

男子飛龍 第3冠 浜松開誠館女子

就任8年目原田賢初の胴上げ

▽男子決勝

飛	82	15	19
開	10	16	13
		58	

勝 枝 明 誠



県新人戦、県総体に続いて飛龍が頂点に立った。就任8年目の原田裕作監督(34)は胴上げされ、笑顔で言った。「初めて胴上げしてもらいました。プレッシャーもありましたが、3冠をできてうれしいです」。

2点リードで前半を折り返し、第3クォーター(Q3)に藤枝明誠を突き放した。いったんは34-34と追いつかれたが、外れたシュートを松下裕汰(3年)が拾って、11年ぶり8度目の優勝を飾った原田の選手たち。

得点・味方のフリースローが外れ、相手にリバウンドされても、スチールで相手の反則を誘った。そして、2本のフリースローを決め、松下は「ファンブルが多いので狙っていました。前から守ることができました」と胸を張った。

高さはないが、全員がPGをできる技術力を目指して練習し、7月の全国総体で同校初(沼津学園時代を含む)と23年ぶり)の8強入りを果たした。冬の全国大会でも、07年(当時沼津学園)の8強が最高成績。伊藤司主将(3年)は「インハイを超える成績を残せるように、練習を頑張ります」と、初の4強入りを目標に掲げた。

男子 飛龍3冠

バスケットボール 全国高校選手権 静岡県大会

男子決勝は飛龍が藤枝明誠を82-58で下し、新人戦、県総体に続く県3冠を達成。11年ぶり8度目(全国出場は11年ぶり7度目)の優勝を決めた。女子決勝は浜松開誠館のエース石田悠月(3年)が公式戦自己最多となる44得点を奪う活躍で市立沼津を破り、2年連続2度目のV(同出場は2年連続3度目)。昨年の総体西部大会から続く県内公式戦無敗記録を35に伸ばした。男女優勝校は来月23日開幕の全国大会(ウインターカップ)に出場する。

【男子】V決勝
飛龍 82 519
1929 181319
1010158 藤枝明誠

大会前は11年ぶりの優勝

11年ぶり8度目 チーム停滞払拭

飛龍が県内無敗で3つ目のタイトルをつかんだ。ス

11年ぶり全国出場を決めた飛龍の選手たち



ビード感あふれる攻撃で突き放し、生徒の手で胴上げされた原田裕作監督(39)は就任8年目でのウインターカップ初制覇。3度宙に舞った。相手の206センチターナー、セコウ・ドゥクレ(1年)をファールトラブルに追い込んだ。ゴール下の守

護神を制御不能にした後半はドライブからの合わせで加点。相手キーマンを第1Qだけで3ファールさせた奥村大翔(3年)は「自分の力は発揮できた」と胸を張った。

全国総体8強後、チームは停滞した。指揮官は「8強の過信なのか。3年生にはもう引退しろって言ったこともあった」と振り返る。どん底でカンフル剤になったのが牛島宗揮(3年)。

総体本番直前でベンチを外されながら、腐らざる復活を目指す姿に再びチーム内の競争が生まれ、状態が向上した。

ウインターカップでは沼津学園時代の07年8強が最高。「総体以上の成績を残せるように頑張りたい」と伊東潤司主将(3年)。パスと人が連動し、スペースとスレを作って攻撃を展開する飛龍バスケットで、初4強の扉を開く。(塩沢 武十七)